

荒木俊馬 あらいま としよま 天文學者、理學博士。明治二十年二月、二十日熊本縣生れ、昭和五十二年七月十日歿（一九七一年七月）。筆名荒木杜可馬、號曉山。大正十一年京都帝國大學理學部宇宙物理學科卒。歐洲留學後、京都帝大教授と、昭和二十年依願退官。その後大谷大學教授等と務めた。四十一年京都産業大學を創立し、初代理事、長兼學長に就任。ポーランド最高功勞十字勳章受章。妻は前新城新藏の娘。

著書 『雨夜夢話』（昭和十七年八月）二十日日本放送出版協會）、『日本に於ける古來の改曆事情』（昭和十七年九月大政翼賛會興亞部「曆法調査資料」）、『日本曆學史概説』（昭和十八年七月）二十日京都・山口書店「自然科學史叢書」）、『科學論叢』（昭和十八年九月十八日恒星社）、『日本精神と日本學術』（昭和十九年十一月十五日恒星社厚生閣）、『辨別と曆法』（昭和二十年八月）二十日恒星社厚生閣）、『コアルプの南北』（荒木杜可馬名、昭和二十二年四月十日京都・中國文化協會）、『神武天皇紀元論—紀元節の正しき見方』（合著・日本文化研究會編、昭和二十二年三月二十一日と花書房）、『日本曆學史概説』（昭和二十五年二月十日恒星社厚生閣「科學史研究撰書」）、『西洋占星術』（昭和二十八年九月）二十五日恒星社厚生閣）、『曉山遺珠』（昭和五十四年二月）二十日荒木俊馬刊）等。

